

# 國民體力審議會官制中改正の件公布

國民體力審議會官制中改正の件は昭和十六年九月三日付官報を以て公布せられたが、從來の審議事項たる國民體力に關する重要事項に更に武道振興に關する重要事項の一項を加へたるをその主たる内容とするもので、之を掲ぐれば次の如くである。

## 國民體力審議會官制中改正

(昭和十六年九月二日  
勅令第八百四十號)

國民體力審議會官制中左ノ通り改正ス

第一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

審議會ハ前項ノ外文部大臣又ハ厚生大臣ノ諮問ニ應ジテ武道振興ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス  
審議會ハ前二項ノ事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條第一項中「委員四十五人以内」ヲ「委員七十人以内」ニ改ム

第五條ヲ第六條トシ第六條ヲ第七條トシ第七條ヲ第八條トス

第五條 厚生大臣ハ必要ニ依リ審議會ニ部會ヲ置キ其ノ所掌事項ヲ分掌セシムルコトヲ得

部會ニ部會長ヲ置ク會長又ハ會長ノ指名スル委員之ニ當ル

部會ニ屬スベキ委員及臨時委員ハ會長之ヲ指名ス  
審議會ハ其ノ定ムル所ニ依リ部會ノ決議ヲ以テ審議

會ノ決議ト爲スコトヲ得

## 附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

武道振興委員會官制ハ之ヲ廢止ス

(參照)

昭和十四年七月二十勅令第四百九十七號國民體力審議會官制抄録

第一條 國民體力審議會ハ厚生大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジテ國民體力ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス  
審議會ハ前項ノ事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

## 農地開發法一部施行期日の農地開發事業令の公布

第七十六帝國議會の協賛を経たる農地開發法については本誌第二卷第四號本欄所載の如くで、その一部施行の件については本誌第二卷第五號に同法施行令と共に既載の通りであるが、同法中特に農地開發事業に關する部分の施行の件については右農地開發事業令と共に昭和十六年九月十三日付官報を以て公布せられた。之を掲ぐれば以下の如くである。なほ農地開發事業令施行規則も同日付の官報を以て公布せられてゐる。

### 農地開發法一部施行ノ件

(昭和十六年九月十二日  
勅令第八百五十二號)

農地開發法第四十四條乃至第六十一條ノ規定ハ昭和十六年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

## 農地開發事業令 (昭和十六年九月十二日 勅令第八百五十三號)

第一條 農地開發營團農地開發法第四十四條ノ事業(以下農地開發事業ト稱ス)ノ施行地區若ハ實施計畫ヲ變更シ又ハ施行ヲ廢止セントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ其ノ事業ノ全部又ハ一部ノ施行ヲ停止セントスルトキ亦同ジ

農地開發法第四十四條第二號ノ農地開發事業ニ關シ前項ノ認可ノ申請アリタルトキハ同法第四十六條第二項乃至第五項ノ規定ハ其ノ認可ニ之ヲ準用ス但シ實施計畫書中輕微ナル事項ノ變更ニシテ農林大臣ニ於テ縱覽ニ供スルノ要ナシト認メタルモノニ關シテハ同條第二項乃至第四項ノ手續ヲ省略シ同條第五項ノ手續ヲ爲スヲ以テ足ル

第二條 農地開發營團御料地及國有地ニ付當該官廳ノ承認ヲ得タルトキハ之ヲ農地開發事業ノ施行地區ニ編入スルコトヲ得  
國又ハ道府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ノ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地ハ之ヲ農地開發事業ノ施行地區ニ編入スルコトヲ得ズ但シ農地開發營團當該行政廳又ハ公共團體ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 農地開發法第四十八條第一項ノ土地ハ當該耕地整理施行者、普通水利組合(水利組合法第九條第二項ノ場合ニ於ケル水害豫防組合ヲ含ム以下同ジ)若クハ北海道土功組合ノ同意ヲ得タルトキ又ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ農林大臣ノ認可アリタルトキハ之ヲ農地開發事業ノ施行地區ニ編入スルコトヲ得  
一 命令ノ定ムル所ニ依リ農地開發事業ノ施行ニ因

リテ生ズル利益ガ當該土地ニ付其ノ事業施行者ガ行フ事業ノ施行ニ因リテ生ズル利益ヲ著シク超過スルトキ

二 施行地區ノ狀況又ハ實施計畫ノ内容ニ依リ農地開發事業ノ目的ヲ達成スル爲テ必要アルトキ

第四條 耕地整理施行地又ハ普通水利組合若ハ北海道

土功組合ノ區域内ノ土地ノ全部又ハ一部ヲ農地開發事業ノ施行地區ニ編入スル場合ニ於テ第一條第一項又

ハ農地開發法第四十六條第一項ノ認可アリタルトキハ農地開發營團ハ遲滞ナク當該耕地整理施行者普通

水利組合又ハ北海道土功組合ニ對シ其ノ施行地區ニ編入シタル土地及之ニ關スル實施計畫ヲ通知スベシ

前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ農地開發事業ノ施行地區ニ編入セラレタル土地ニ付農地開發事業ノ實施計畫

ニ抵触又ハ重複スル事業ヲ爲スコトヲ得ズ

農地開發營團ハ耕地整理施行者、普通水利組合又ハ北海道土功組合ガ前項ノ場合ニ於ケル已ムコトヲ得

ザル事業ノ廢止又ハ變更ニ因リテ通常受クベキ損害ヲ補償スベシ

農地開發法第五十五條第二項、第三項及第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

農林大臣ハ第二項ノ規定ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命ズルコトヲ得

第五條 農地開發營團ハ工事竣功ノ認可ヲ受ケタル後ニ非ザレバ農地開發法第四十四條第一號ノ農地開發

事業ノ施行地區内ノ土地ヲ處分スルコトヲ得ズ

第六條 農地開發法第五十條第一項第二號ノ規定ニ依リ收用セラレタル土地ノ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ農

レタル土地ヲ第七條第一項ノ價格ヲ以テ買受クルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ農地開發營團ハ自作農創設ノ爲テ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ他ノ土地ヲ以テ收用セラレタル土地ニ代フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七條 農地開發營團ハ農地開發法第四十四條第一號ノ農地開發事業ノ工事竣功ノ認可アリタルトキハ遲滞ナク前條第一項ノ規定ニ依リ賣渡スベキ土地及價格ヲ定メ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

前條第一項ノ規定ニ依リ賣渡スベキ土地ガ第十四條但書ニ該當スルモノナルトキハ前項ノ手續ハ第十三條第三項ノ規定ニ依リ申出ニ依リ買受ヲ爲スベキ者

ナキコト明ト爲リタル後之ヲ爲スベキモノトス

第一項ノ認可アリタルトキハ農地開發營團ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ對シ其ノ者ニ讓渡スベキ土地及

其ノ價格ヲ通知スベシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二月内ニ舊所有者又ハ其ノ相續人ガ買受ノ通知ヲ爲サザルトキハ前條ノ權利ヲ失フ

耕地整理法第三十五條ノ規定ハ第三項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第八條 農林大臣ハ農地開發法第五十七條ノ規定ニ依リ認可アリタル日ニ於ケル同法第四十四條第二號ノ

農地開發事業ノ施行地區内ノ土地ノ所有者又ハ地上權者若クハ永小作權者其ノ地上權又ハ永小作權ノ殘

存期間ガ二十年ニ滿タザル者ヲ除クニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ農地開發法第五十三條第一項ノ規定

ニ依リ事業ノ施行ニ要シタル費用ノ一部ヲ農地開發

營團ニ支拂フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第九條 農地開發法第五十三條第一項ノ規定ニ依リ支拂フベキコトヲ命ジ得ベキ費用ノ總額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ算定シタル事業費ノ一定割合ノ額ヲ以テ

其ノ限度トス

第十條 農地開發法第五十三條第二項ノ異議ノ申立ハ異議ノ要點及理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

異議ノ申立アリタル場合ニ於テ農林大臣必要アリト認ムルトキハ農地開發法第五十三條第一項ノ規定ニ

依ル命令ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

異議ノ申立ハ命令ヲ以テ定ムル期間ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十一條 農地開發營團農地開發事業ノ實施計畫ヲ以テ其ノ施行地區ヲ數區ニ分チタ場合ニ於テハ其ノ

各區ニ付農地開發法第五十七條ノ規定ニ依リ工事竣功ノ認可ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第十二條 農林大臣農地開發法第五十七條ノ規定ニ依リ工事竣功ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第十三條 農地開發營團ハ農地開發法第四十四條第一號ノ農地開發事業ニ付工事竣功ノ認可アリタルトキ

ハ遲滞ナク同法第五十八條第一項ノ規定ニ依リ讓渡スベキ土地ノ價格ヲ定メ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

農地開發營團前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ農地調整法第四條ノ自作農創設維持ノ

事業ヲ行フ者ニ前項ノ價格ヲ以テ讓渡スベキ旨ヲ公告スベシ

農地調整法第四條ノ自作農創設維持ノ事業ヲ行フ者

前項ノ公告後三月内ニ第一項ノ價格ヲ以テ買受クベ

キ旨ヲ申出タルトキハ農地開發營團ハ農地開發法第

五十八條第一項ノ規定ニ依リ其ノ土地ヲ讓渡スベシ

第十四條 前條第一項ノ土地ニシテ同條第三項ノ規定

ニ依ル申出ニ依リ讓渡ヲ爲サザルモノニ付テハ農地

開發營團ハ自作農創設ノ用ニ供スル爲之ヲ處分スベ

シ但シ其ノ管理又ハ處分ノ方法ニ付別ニ農林大臣ノ

認可ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 前二條ノ規定ハ農地開發法第五十條第一項

第二號ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニシテ第六條第

一項ノ規定ニ依リ農地開發營團ガ賣渡サザルモノニ

之ヲ準用ス

第十六條 農地開發法第五十九條ノ規定ニ依リ引渡ヲ

受クベキ者ハ道府縣、市町村及水利組合ノ外左ニ掲

グルモノトス

一 北海道土功組合

二 市町村組合、町村組合

三 市制第六條ノ市ノ區

四 前各號ノ外農林大臣ノ適當ト認ムル者

第十七條 農地開發法第五十九條ノ規定ニ依リ引渡ハ

農地開發事業ノ工事竣功ノ認可ヲ受ケタル後ニ非ザ

レバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十八條 農地開發營團農地開發法第五十九條ノ規定

ニ依リ引渡ヲ爲サントスルトキハ農地開發營團ハ引

渡ヲ受クベキ者ト協議ヲ遂ゲ命令ノ定ムル所ニ依リ

協議書ヲ作成シ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

農地開發法第五十九條ノ規定ニ依リ引渡及維持管理

ハ前項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル協議書ノ定ムル

所ニ依ルベシ

第十九條 耕地整理法第六條、第十八條(第二項但書

ヲ除ク)、第十九條乃至第二十一條、第二十二條第

二項第三項、第二十三條、第二十四條及第二十七條

(但書ヲ除ク)ノ規定ハ農地開發法第四十四條第二號

ノ農地開發事業ニ之ヲ準用ス但シ第六條中本法トア

ルハ農地開發法トシ土地ノ所有者、占有者、關係人

其ノ他整理施行地ニ付權利ヲ有スル者トアルハ施行

地區内ノ土地若ハ土地ニ定著スル物件ノ所有者其ノ

他之ニ關シ權利ヲ有スル者、漁業權者若ハ入漁權者

其ノ他此等ノ權利ニ關シ權利ヲ有スル者又ハ施行地

區内ノ土地ガ耕地整理組、同ノ地區若ハ普通水利組

合、北海道土功組合其ノ他農業水利ニ關スル事業ヲ

行フ公共團體ノ區域ニ屬スルトキハ其ノ組合若ハ公

共團體トシ耕地整理ノ施行トアルハ農地開發事業ノ

施行トシ第二十一條第二項中第十八條第二項トアル

ハ第十八條第二項本文トシ第二十四條中第三十條第

四項トアルハ本令第十二條トス

第二十條 農地開發法第四十四條第二號ノ農地開發事

業ヲ施行スル爲國有ニ屬スル道路、堤塘、溝渠、溜

池等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタルニ依リ不用ニ歸シ

タル土地ハ無償ニテ農地開發營團ニ之ヲ交付ス但シ

當該事業ノ施行ニ依リ開設シタル道路、堤塘、溝

渠、溜池等ニシテ廢止シタルモノニ代ルベキモノヲ

無償ニテ國有地ニ編入スル場合ニ限ル

第二十一條 農地開發法第四十四條第一號ノ農地開發

事業ニ關シテハ耕地整理法及同法ニ基キテ發スル命

令ヲ適用ス但シ農地開發法及本令竝ニ此等ニ基キテ

發スル命令ニ於テ別段ノ規定アル事項ニ付テハ其ノ

定ムル所ニ依ル

第二十二條 農地開發法第四十四條第一號ノ農地開發

事業ニ關シ耕地整理法及同法ニ基キテ發スル命令ヲ

適用スルニ付テハ農地開發營團ガ施行地區内ノ土地

ニ付當該事業ノ施行ニ關シ其ノ所有者ノ同意ヲ得タ

ルトキハ農地開發營團ヲ其ノ土地ノ所有者ト看做ス

第二十三條 農地開發法第四十四條第一號ノ農地開發

事業ニ關シ耕地整理法及同法ニ基キテ發スル命令ヲ

適用スルニ付テハ耕地整理法第六條中土地ノ所有

者、占有者、關係人其ノ他整理施行地ニ付權利ヲ有

スル者トアルハ施行地區内ノ土地若ハ土地ニ定著ス

ル物件ノ所有者其ノ他之ニ關シ權利ヲ有スル者、漁

業權者若ハ入漁權者其ノ他此等ノ權利ニ關シ權利ヲ

有スル者又ハ施行地區内ノ土地ガ耕地整理組合ノ地

區若ハ普通水利組合、北海道土功組合其ノ他農業水

利ニ關スル事業ヲ行フ公共團體ノ區域ニ屬スルトキ

ハ其ノ組合若ハ公共團體トス

第二十四條 農地開發法第四十四條第一號ノ農地開發

事業ニ關シ耕地整理法及同法ニ基キテ發スル命令ヲ

適用スルニ付テハ工事完了トアルハ農地開發法第五

十七條ノ規定ニ依リ工事竣功ノ認可トシ設計書トア

ルハ農地開發法第四十四條第一號ノ農地開發事業ノ

實施計畫トシ整理施行地區トアルハ農地開發法第四

十四條第一號ノ農地開發事業ノ施行地區(實施計畫

ヲ以テ施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ其ノ

各區トス

第二十五條 農地開發法第四十四條第一號ノ農地開發

事業トシテ行フ耕地整理ノ換地處分ニシテ耕地整理

法第三十條第一項ノ規定ニ依ルコトヲ適當トセザル

モノニ付テハ其ノ處分ハ當該事業ノ實施計畫ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ規定ニ依ル處分ハ之ヲ耕地整理法第三十條第二項ノ規定ニ依ル處分トス

第二十六條 農地開發法第四十四條第一號ノ農地開發

事業ニ關シ耕地整理法及同法ニ基キテ發スル命令ヲ適用スルニ付テハ耕地整理法及同法ニ基キテ發スル命令ニ依ル地方長官ノ職權ハ農林大臣之ヲ行フ

第二十七條 農林大臣農地開發事業ノ區域及計畫ヲ定

メントスル場合ニ於テ農地開發營團ガ其ノ計畫ノ實施上河川、湖沼ノ使用ニ關シ許可ヲ必要トシ又ハ道路法若ハ公有水面埋立法ノ規定ニ依リ許可若ハ免許ヲ必要トスルモノニシテ重要ナルモノニ關シテハ内務大臣ニ、發電用水利ニ著シキ影響ヲ及ボス虞アルモノニ關シテハ逓信大臣ニ農林計畫委員會ニ付議前豫メ協議スベシ

附則

本令ハ昭和十六年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

### 勞務統制委員會官制の公布

昭和十六年九月二十二日付官報を以て公布を見たる勞務統制委員會官制を掲ぐれば次の如くである。

勞務統制委員會官制 (昭和十六年九月二十日勅令第八百七十三號)

第一條 勞務統制委員會ハ厚生大臣ノ監督ニ屬シ其ノ

諮問ニ應ジテ國民ノ徵用、學校卒業者使用ノ制限、青少年雇入ノ制限、國民職業能力ノ申告及工場事業場技能者ノ養成其ノ他勞務ノ統制ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

第二條 委員會ハ會長一人及委員三十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ厚生次官ヲ以テ之ヲ充ツ

委員及臨時委員ハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ左ニ掲グル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

一 關係各廳高等官

二 學識經驗アル者

前項第二號ニ掲グル者ノ中ヨリ命ゼラレタル委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ厚生大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 厚生大臣ハ必要ニ依リ委員會ニ部會ヲ置キ其ノ所掌事項ヲ分掌セシムルコトヲ得

部會ニ部會長ヲ置ク會長又ハ會長ノ指名スル委員之ニ當ル

部會ニ屬スベキ委員及臨時委員ハ會長之ヲ指名ス

委員會ハ其ノ定ムル所ニ依リ部會ノ決議ヲ以テ委員會ノ決議ト爲スコトヲ得

第六條 委員會ニ専門委員ヲ置クコトヲ得厚生大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

専門委員ハ會長ノ命ヲ承ケ専門ノ事項ヲ調査ス

第七條 委員會ニ幹事ヲ置ク厚生大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第八條 委員會ニ書記ヲ置ク厚生大臣之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

工場事業場技能者養成委員會官制及青少年雇入制限委員會官制ハ之ヲ廢止ス

### 勞務徵用に關する五勅令案要綱の決定

總動員審議會に於ては昭和十六年九月十一、十二の兩日に互り勞務徵用に關する五勅令案要綱を附議可決するに到つたが、近く制定實施の曉我が國の勞務動員體制はいよいよ完備することが期待せられる。右五勅令案要綱を掲ぐれば以下の如くである。

#### 勞務の調整に關する勅令案要綱

第一 厚生大臣の指定する工場、事業場其の他の場所(以下指定工場と稱す)に於て使用せらるる從業者又は厚生大臣の指定する從業者の解雇及退職に付ては國民職業指導所長の認可を受くるに非ざれば之を爲すことを得ざること

前項の從業者に付ては雇傭の期間滿了するも雇傭契約は終了せざること

第二 特別の技術、技能又は經驗を有する者にして厚生大臣の指定するもの(以下技能者と稱す)の雇入及就職に付ては國民職業指導所長の認可を受けたる場合又は國民職業指導所の紹介ある場合を除くの外之を爲すことを得ざること

第三 第二の規定は年齡十四年未滿若は年齡六十年以上の男子又は年齡十四年未滿若は年齡四十年以上の